

## 聖母被昇天をお祝いいたします！

戦後 78 年目の夏を迎えました。かつての戦争を思い起こし、平和を願う時節です。一方で現在もウクライナとロシアでは激しい戦闘が続いています。かつて「聖母よ、日本を勝たしめ給え」という射祷があったと伝え聞きます。戦争に勝者はありません。今はただ「聖母よ、長く戦争を終わらしめ給え」と祈るばかりです。「この平和をこそ、わたしは復活した主イエスに熱心に祈り求めます。主が、平和を脅かしうるものを人々の心から駆逐し、すべての人を、真理、正義、そして兄弟愛の証人にするようにと」（教皇ヨハネ 23 世『回勅パーチェム・イン・テリスー地上の平和』）



## 日本カトリック映画賞 三年ぶりの上映

第 47 回日本カトリック映画賞作品『桜色の風が咲く』（松本准平監督）の上映会と授賞式・対談が 2023 年 6 月 2 日、飯田橋の神楽座で行われました。コロナのため上映会ができなくなってから三年ぶり。上映会ができなくても映画賞作品を選び、関係者のみの参加で授賞式と対談は続けてきましたが、それでは観客の皆さんと一緒に映画を観て、その感動を共有する喜びはありません。いつになったら上映会ができるのか。そんな悩みがありました。コロナが気にならない訳ではありませんが、怖れてばかりいたら何もできません。上映会もいつまでも再開できません。そんな中、私たちは素晴らしい映画に出会いました。それがこの『桜色の風が咲く』です。視力と聴力を失いながら、世界で初めて大学教授となった福島智さんとその家族の物語。実話をもとに「生きる希望」を描いた真摯で温かな人間讃歌（同作品公式ホームページ）として選考会でも高く評価されました。「この映画を上映したい」「その感動をみんなで共有したい」この思いが、コロナの不安を超えて上映会の実現に向けて歩き出す力になりました。小規模会場での上映会では採算は取れませんが、それを覚悟での再開でした。ところが当日は台風接近で大雨。「電車がストップして帰れなくなるかも」と諦めた方もいらっしやる一方、ずぶ濡れになりながら会場に来てくださった方々もいらっしやいました。「大雨の中に来てくださった皆様に感謝」シグニスのメンバーの一致した思いです。「雨に濡れましたが行ってよかったです。映画と対談に感動しました。」来場した方々のこのような感想が次回に向けての活動の励みになっています。来年の上映会への歩みはすでに始まっています。



## シグニス平和賞 上映会



6 月 23 日にはシグニス平和賞の上映会と授賞式・対談が同じ会場で開催されました。平和賞はカトリックの世界観と価値観に合う作品で、平和へのメッセージとなりうる作品に贈られるものです。今回は 2 回目。『劇場版 荒野に希望の灯をともし』（谷津賢二監督）が選ばれました。医師・中村哲さんの活動の 35 年の軌跡を追ったドキュメンタリー映画です。「貧困と飢餓、戦争、環境問題。地球上の諸問題について、多くの人はすでにあきらめている。最大の問題は、そのあきらめ自体であることに気づかずに。そんな世界に、中村哲という『あきらめない人』が確かに存在したという事実は、全人類の希望である」シグニス顧問司祭・晴佐久昌英神父のこの言葉が、同映画を平和賞に選んだ理由のすべてを語っています。上映後の対談を終えた谷津賢二監督は、今回の平和賞受賞を一番喜んでいるのは中村哲さんだということの意味のことを話してくださいました。上映会の感想からも、この映画が多くの観客の皆さんに中村哲さんの生き方、平和に対する思いを伝えていると感じました。

上映会と授賞式・対談を実現するまでにはたくさんの「やらなければならないこと」があります。作品の選定、配給会社との交渉、監督との打ち合わせ、会場確保、チケット販売などなど。時間も労力もかかります。でもその過程で、関わっていたからこそ得られる貴重な出会いや喜びがあります。多くの方と映画の感動を共有できるという喜びもそのひとつです。「映画とは何か、分かった気がした。それはたぶん、人間の美しさをみんなで共有する道具なのだ」これは 2017 年の受賞作『ブランカとギター弾き』についての晴佐久昌英神父の授賞理由の一節です。

映画のもつ力を信じてこれからも活動を続けていきたい。これがシグニスの願いです。（映画チーム 鈴木浩）

★各賞の対談の様子は You Tube でご覧いただけます。

第 47 回日本カトリック映画賞 <https://www.youtube.com/watch?v=zV7RolniCGM>

第 2 回シグニス平和賞 <https://www.youtube.com/watch?v=zExQxaSBjzo&t=10s>

## 動画フェスティバル開催に向け検討加速

「聖書動画コンテスト」をご存じでしょうか。日本聖書協会の主催で2016年から毎年開催され、聖書をテーマに制作された1~3分ほどのオリジナル動画を公募するというイベントでした。入賞作品はオンライン上で公開され、コロナ禍になるまでは対面で上映会や授賞式なども行われていました。このコンテストは、残念ながら2022年度の第7回をもって終了してしまいました。そこで、あるシグニスサポーターから、それに代わるイベントをシグニスが開催してはどうかというご意見をいただきました。

シグニスジャパンでは、2017年の総会で「福音的な映画を紹介し、福音的なインターネット文化を育て、福音的にメディアを用いる個人・団体を応援することで、人を隔てるあらゆる壁を超えて、普遍的平和をもたらすキリストの福音を広める」というミッションステートメントを定めました。福音的な動画を募り、その動画制作者を応援するイベントは、まさしくこのミッションステートメントの精神に合うものと言えます。また、福音的なインターネット文化を育てるという点でも、シグニスジャパンのメンバーには土屋至会長をはじめカトリック教育関係者が多く、シグニスのサポーターや協力者にも教員がいることから、聖書動画コンテストに代わる新しいイベントはシグニスジャパンが主催できたらよいのではないかと思うに至りました。

このイベントを「シグニス動画フェスティバル」と名づけ、インターネットチームを中心に、来年度の開催を目指して準備を進めています。イベント名からわかるように、「コンテスト」ではなく「フェスティバル」であるということが大きなポイントです。応募作品の審査と入賞作品の選出は行いますが、面白くてあっという間に時間が過ぎてしまうような楽しい動画を募集し、喜びを分かち合えるようなイベントにしたいと考えています。

福音とは喜びの知らせです。それは、パウロが「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ローマ12章15節）と言うように、他者と共有することができます。作り手の想いが

動画を通して見ている側に届き、それに共感した人がさらにそれを別のの人に勧める、というような連鎖反応が起きます。動画を作りながら感じた喜びや、動画を作ることによって福音を（再）発見したというような学びの形跡が見られると良いのではないかと思います。そうすることで「喜びの知らせ」が多くの人々に届くことを願っています。

また、イベントの開催に先駆けて、いくつかのプレイベントを行いたいと思っています。「シグニス動画フェスティバル」の開催趣旨や意義の確認から、動画制作のルールやコツといった実践的なことまで、皆さまと広く共有できるようなイベントを計画しています。そのためには、ほかの団体やこれまでシグニスに関わってくださった方たちとの協力が不可欠です。2021年に行ったインターネットセミナーでは「動画でも福音は伝えられる？」というテーマで、片岡賢蔵氏（現在、新潟市の日本基督教団東中通教会伝道師）を講師に招き、動画伝道についての話をうかがいました（詳細は「タリタ・クム！」2021年復活祭号をご覧ください）。その後、シグニスは片岡氏が主催する「動画伝道ワークショップ」を後援させていただきましたが、片岡氏をはじめ、そこで知り合った方々や、カトリック中央協議会広報、カトリック新聞、パウロ会、プロテスタント系のメディア等にもご協力いただき、「シグニス動画フェスティバル」開催に向けて、準備を進めていければと思っています。

シグニスジャパンの新しい挑戦をどうぞお楽しみに。  
（インターネットチーム 高原夏希）



### 会員・サポーター募集

会員 一緒に活動して下さる方 個人会員 6,000円/年 団体会員 12,000円/年  
サポーター 経済的に支援して下さる方 1,000円/口（何口でも）

ニュースレター「タリタ・クム！」をお届けします。ともに感謝ミサをいたします。  
映画賞上映会、インターネットセミナーなど、ボランティアとして活動してください。

★教会、修道会広報関係の方も歓迎いたします。

#### <振込先>

銀行振込：三菱UFJ銀行 六本木支店（店番 045）普通 1679019 口座名：SIGNIS JAPAN 代表 土屋至  
郵便振込：口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

\*他行から振込場合 銀行名 ゆうちょ銀行 店番 019 預金種目 当座 店名 〇一九店（ゼロイチキュウ店）  
口座番号 0594547 口座名義 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

お申し込み、お問い合わせ 女子パウロ会内 SIGNIS JAPAN  
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42 / [info@signis-japan.org](mailto:info@signis-japan.org)

